



したきりすずめ

石井桃子 再話

赤羽末吉 画

福音館書店 1982年 1500円

昔あるところにじいさとばあさがすんでいました。じいさは1羽のすずめを飼って、大事に世話をしていました。ある日すずめは、ばあさの糊を舐めてしまい、怒ったばあさから舌を切られてしまいます。それを知ったじいさは「おら、すずめにあやまってくる」と、「すずめや すずめ すずめのおやどは どこじゃいな ちゅんちゅん」と山へ入っていきます。やっとすずめのお宿にたどりついたじいさは、歓待され、おみやげに宝のつまった「ちいさいつづら」をもらって帰ります。宝がもっとほしくなった欲深なばあさは「大きいつづら」をもらおうとすずめのお宿にでかけますが…。

代表的な日本の昔話が、すぐれた再話者と画家を得て絵本になりました。やさしくてリズムのある文章は、声にだして読むと耳に快く響きます。大人も一緒に楽しみながら、子ども達に読んであげてください。赤羽末吉の絵は、ユーモラスで力強く、格調が高い日本画です。国際的にも高く評価され、1980年には国際アンデルセン賞画家賞を受賞しています。「よき一冊の絵本は、よき伝統につながると、私は信じています」（「国際アンデルセン賞画家賞授賞式挨拶」より）。赤羽末吉の日本の昔話絵本には「かさじぞう」「だいくとおにろく」「ももたろう」などがあります。